

コミュニケーション分野 | 人材育成 310

奈良県木材産業に係る一貫貫した人材育成
奈良県農林部奈良の木ブランド課




概要
切れ目のない人材育成の取り組みを行うために、乳幼児には「奈良の木の積み木」の配布。小・中学校では「奈良の木で作った学習机・椅子」等の導入を推進し、木の温もりを伝える。高校生には「高校生熱中講座」を開催し、木を使う意義や奈良の木の特長について考える機会を創出。大学生には「奈良の木大学」を開催し、奈良の木の魅力や特長、木造建築について学ぶ講義と現地視察を実施。社会人には「奈良の木の匠養成塾」を開催。奈良の木を利用する意味を理解し、積極的に「奈良の木」を提案できる人材を育成している。

◆<http://www.pref.nara.jp/item/140580.htm#moduleid53942>
評価ポイント 乳幼児から社会人まで継続的に木に関わる仕組みを実行しているケースは稀であり、本気度が伺える。輩出される人材の活躍の場づくりにつながる提案にも期待したい。

コミュニケーション分野 | 人材育成 307

「暮らしの学校だいらぼっち」の暮らしにおける木材活用
NPO法人グリーンウッド自然体験教育センター




概要
どこの山村でもコマリゴトである森林活用・間伐材利用を山村留学生の暮らしの燃料や道具として活用、つまり教育財として活かす活動。現代の子どもたちに大きな成長の機会を与え、地域にはこどもが増え、活動するほどに森林は豊かになり、村民の活躍の場になるなど、効果が相互に作用しながら、循環されるデザインを作り上げた。

◆<http://www.greenwood.or.jp>
評価ポイント 長期滞在型教育プログラムとして、1年間を過ごすという点に本気度を感じる。延べ450人の実績は素晴らしい。木材、森林活用を学ぶとともに地域や世代間交流につながる点も良い。

コミュニケーション分野 | 人材育成 311

アーバン木こりプロジェクト
(株)バウム、一般社団法人more trees




概要
丸の内のもちづくりの一環である市民大学「丸の内朝大学」の講座のひとつとして、2013年春学期から定期的に開講している講座のひとつ。毎朝1時間、全7回～9回の講座を過去5回にわたって開講。卒業生の数は150名にのぼる。都心で働き暮らすビジネスパーソンが森林・林業について学び、都会の視点をいかして森にまつわる課題解決を目指すカリキュラム。過去講座では岩手県住田町もしくは高知県梶原町をフィールドワーク地として訪れ、丸の内でも働くビジネスパーソンと林業および林業のまちとの密接な関係性を生み出している。

評価ポイント 森林・林業に興味を持つコミュニティ醸成や六次産業化のネットワーク化まで派生し、産地と都市をつなぐサステナブルなプログラムとして機能している。

コミュニケーション分野 | 人材育成 308

森活塾(木材コーディネーター研究会)
NPO法人サウンドウッズ



概要
森活塾は、森林林業、木材製造流通、木材利用の各分野の実務者に対して、木材流通における横断的な理解を促す講座を実施し、修了者を「木材コーディネーター」として認定しています。木材コーディネーターは、事業連携やビジネスモデルを全国で実践し、木づかいの仕掛けづくりに取り組んでいます。木材コーディネーターが集う研究会では、情報交換・技術研究を行い、外部専門家や実務者、大学等研究機関との連携を図りながら課題解決に取り組んでいます。

◆価格:木材コーディネーター基礎講座受講費:120,000円、入手先:森活塾サイトにて、随時情報を提供中 <http://school.soundwoods.net/>
評価ポイント 森と暮らしの統合的なデザインを手掛ける人材を木材コーディネーターと位置付け、その育成に取り組む時宜に合った、新規性あるモデル。バリューチェーンをつなぐための重要な人材育成の取組である。

コミュニケーション分野 | 普及・啓発(システム化) 312

日本木造耐火建築協会による木造耐火建築物の普及活動
日本木造耐火建築協会



概要
日本木造耐火建築協会は、都市における安心・安全な国民生活の実現のため、「木を現した耐火木構造部材」及び同部材の使用による「中高層・大規模木造建築」の普及を目的としております。特定企業や団体がその技術を独占的に有する耐火木構造部材の製造・販売オープン化をはじめ、木造耐火建築物に関するセミナーや見学会の開催及び後援、建築技術の提供などの活動を通して、耐火技術の開発によって木造建築の進出、新しい市場への参入を促し、新たな木造文化の実現を目指しています。

◆価格:一般会員:5万円、入手先:日本木造耐火建築協会への会員登録 <http://www.mokutaiken.jp/index.html>
評価ポイント 大規模木造建築物の建設促進、木材需要拡大の観点から重要な活動であり、日本の先進的な部材、技術や工法の開発に弾みをつけるものである。

コミュニケーション分野 | 人材育成 309

大工育成ビジネスモデル[素材のわかる匠の技伝承ビジネスモデル]
(株)新和建設、職業訓練法人 濃飛建設事業者職業訓練協会



概要
本モデルは、工業化や高齢化の時代の中で危機に立っている、建築における木工技術、匠の技の伝承を、当社のビジネスシステムに取込み、学ぶ研修時間を創出するものである。大工研修生は正社員として入社。大工道具を一式支給され、親方に配属。大工学校(2年)へ通いながら6年間の現場研修。7年目には親方にお礼奉公。8年目に棟梁として独立するプログラム。

◆入手先:愛知県北名古屋市長野山15番地および岐阜県美濃加茂市本郷町9丁目15番60号で見学可能。 <http://www.sinwanet.co.jp/>
評価ポイント 大工の技の習得・伝承を事業化しており、地元密着の大工育成は若年層の流出を防ぐことにもつながる。御礼奉公制度をシステム化しているところも良い。

コミュニケーション分野 | プロモーション(継続) 304

「木の家づくり」と山とまちの人々を繋ぐ仕掛け
(株)安成工務店、(株)トライ・ウッド




概要
安成工務店は平成元年からパッシブソーラーを取り入れた環境共生住宅を手掛けてきた。平成8年に第三セクターの製材会社(株)トライウッドと出会い、以降一貫して、林産地と連携した「木の家」をテーマに自然素材型住宅をつくり続けている。まちに住む消費者を、如何に林産地へお誘いし、「山の豊かさ」や「自然の偉大さ」そして、その山で手塩にかけて育てられた木材で「木の家」をつくる意義深さを理解していただくか、について、20年近く続けてきた大きな試みである。

◆入手先:森林体験ツアー、植林ツアー、エコビルドツアー、完成見学会 <http://www.yasunari.co.jp/>
評価ポイント 継続的に林産地連携と情報公開、顧客とのコミュニケーションを行ってきた実績を評価した。研究機関、NPO等との連携にも積極的である。

コミュニケーション分野 | プロモーション(継続) 301

大黒柱ツアーで建てる家
古河林業(株)




概要
大黒柱ツアーとは、宮城、秋田の古河林業自社林に自生する実際の樹木を、お施主様、ご家族様と共に伐採し、自邸の大黒柱として使用する取組です。ツアーを通じて施主自ら原材料を調達し、自邸に設置することで、「買う」のではなく、「つくる」住宅建築をより体感できます。設置された大黒柱は、時にリビングで見守り、時に玄関でご帰宅を出迎える等、ご家族様の暮らしにあった役割を通じて、竣工後もストーリーづくりの一翼を担います。結果、愛情の面からも住宅の長寿命化に貢献します。

◆入手先:古河林業の各住宅展示場 <http://www.furukawa-ringyo.co.jp/kokusanzai/daikokubashira.html>
評価ポイント 木のすごさや良さ、森林のあり方を山と街で共有するための仕掛けとして大黒柱選定ツアーを続けている。現物視察を通じて、木への理解や愛着を育てている。

コミュニケーション分野 | 人材育成 305

八王子現代家具工芸学校
「家具のまち八王子」八王子現代家具工芸学校




概要
「アート・デザイン・クラフト」の中に「モダンと伝統・思考と技術・人と木」と言う三位一体の木製家具・木工品のデザインと制作が行えるような教育をプロを目指す人から趣味の木工の人達まで幅広く学べる場所です。物の見かたのデザイン方法から手道具の仕立て、200v大型木工機械の扱い方までの家具製作や木工に必要な思考と技術を学べます。

◆仕様:人材育成、費用:54,000~1,200,000円、場所:八王子現代家具工芸学校 <http://blog.goo.ne.jp/gendaikagu>
評価ポイント プログラム内容のクオリティが高く、技術とデザインの双方を学ぶという取組はなかなか希少。森の現場へ入っていく教育、地域を巻き込むプログラムへ発展していくことを望む。

コミュニケーション分野 | プロモーション(継続) 302

フレフレーム
(株)フレームアンドエレメンツ




概要
「フレフレーム」は、セルフビルドで空間を造る新しい方法です。軽くて細い柱「フレフレーム」を千鳥状に土台の木に建てていき、横板「フレコフレーム」をその柱の間にはめ、ビスとインパクトドライバーだけで組みあがる単純な工法で、窓やドアの位置などは造りながら考えられる。設計図を造らなくてもよく、軽い部材なので力もいらず、子供でも女性でも誰でも自由に楽しく空間づくりができます。

◆入手法・価格はホームページよりお問い合わせください。 <http://frameandelements.com>
評価ポイント プロダクトとしては意匠性や機能性を備えており面白い。自力で組み立てる経験をDIYに活かすだけでなく、災害の際に生きるノウハウにも役立てるという発想が良い。

コミュニケーション分野 | 人材育成 306

木育推進員養成講座
熊本ものづくり塾



概要
木育の趣旨に従い、年間2万5千人に対して、木や森についての講座や、木を素材にしたものづくりを提供してきた。しかし、1つの団体ではこれ以上実施回数を増やしたり、参加人数を増やすことには限界を感じている。そこで、森林・林業、木材、環境及び木でものを作ることの教育の意義・効果等を理解し、木育を指導できる「木育推進員」を養成する講座を、平成21年度から実施している。県主催の講座を含めると延べ1300人を輩出している。

◆仕様:各回30名募集、価格:受講参加費無料、熊本ものづくり塾へお尋ね下さい。問い合わせ先:メールアドレス ems.monodukuri@gmail.com <http://www.mokuiku.jp/case/jirei/16.pdf>
評価ポイント コミュニケーションデザインの中で、「伝えるための人づくり」は欠かせない視点である。知識のみでなく、いかに伝えるかのノウハウを伝授することで、木育の普及促進を後押ししている。

コミュニケーション分野 | プロモーション(継続) 303

みえもの取り組み
みえもん




概要
「みえもん」は県内で伐採された杉材の中の未利用材や端材を活用して、普段使いの日用品を企画し、商品化して販売している。色味が建築用材に適さない黒芯材を箸に、柱材製材後に出る薄板をカードケースやうわに加工して端材活用し、林業の歩留まりの悪さを改善し、山に元気を与えたいとの想いが出発点である。杉製品販売の傍ら、都内でカフェイベントを開きトークショーや食材・出版物・地酒の紹介により三重の「もの・ひと・こと」を情報発信している。

◆仕様:杉、無塗装、価格:350円/セット~1,500円/個(税込)、入手先:「みえもん」web、Amazon、三重テラス、MieMu など www.miemon.jp
評価ポイント ひと・もの・ことを一元化してブランディングする方法は、地域そのもののファンを育てる上で重要な視点。プロダクトへのこだわりや背景をより伝える手段を検討すると良い。